

## (5) 閉会全体会合

11月12日(水) 15時15分～17時15分 名古屋国際会議場(センチュリーホール)

### ア. 全体報告者による発表(要約)(ヘイラ・ロッツ=シシットカ 南アフリカ ローズ大学)

ボコバ ユネスコ事務局長の「この会議は、これまでの旅路の到達点であると同時に、新たな旅路の出発点である」という発言は意義深いものでした。質の高い教育に新しい重要な意味が与えられました。本世界会議の成果の拡大に当たっては、教育の目的を考え直し、政策、実践、倫理観や価値観、知識生成のアプローチ、教育手法や評価、また教育の必要性の原点を考えていかなければなりません。大事な地球を守っていくために潘基文国連事務総長の「プラン B はない」という発言は非常に重要です。また今後もユネスコが率先していくことが重要です。ポスト 2015 年アジェンダに、ESD をきちんと組み込んでいくことが重要です。本会議で明らかになった様々な価値感、集团的関与、行動といった要素を結集していかなければなりません。ユネスコスクール世界大会代表のベルナルド・ニコラウ氏から「私たちは地球を子供から借りている」という発言がありましたが、これは世代間の対話の重要性も示していると思います。



### イ. あいち・なごや宣言の発表(要約)(チャールズ・ホプキンス 宣言起草委員会\*座長)

宣言は、全ての方に理解されやすいもの、非常に包括的で参加を促したものになっていることが重要だと思います。宣言の作成に当たっては、国際運営委員会(ISG)、国連ESDの10年のリファレンスグループ、評価・モニタリングの専門家、34のワークショップのコーディネーター、様々なステークホルダーに加わっていただきつつ、ユネスコ加盟国からの意見、岡山市での主たるステークホルダー会合の成果を取り込みました。世界会議中には、政府代表、市民社会、民間セクター、国際開発団体、ホスト国である日本、ユネスコの代表及び全体報告者からなる「あいち・なごや宣言起草委員会」で検討を重ねました。政治的なメッセージとして、支援を求める声を政府に届けようと考えました。ユネスコ総会で決議されたグローバル・アクション・プログラム(GAP)や今まで決議された他の宣言の内容にも目を配りました。世界会議の議論を反映しつつ、これからの取組を更にスケールアップしていくという内容です。



※あいち・なごや宣言起草委員会のメンバーは「第二部 参考資料 41」参照

### ウ. あいち・なごや宣言の採択(要約)(丹羽秀樹文部科学副大臣)

グローバル・アクション・プログラム(GAP)をベースにしたこの宣言が、今後具体的な行動に私たちを導いてくれると信じています。この意義深い宣言が、本日私の地元である愛知県で採択されたことを心からうれしく思います。



## エ. グローバル・アクション・プログラム(GAP)実施方針の発表(要約) (チェン・タン ユネスコ教育担当事務局長補)

グローバル・アクション・プログラム(GAP)は、昨年 11 月の第 37 回ユネスコ総会で採択されました。同プログラムは、ポスト 2015 年教育アジェンダに貢献し、かつポスト 2015 年教育アジェンダと連携したものでなければなりません。また、五つの優先行動分野、四つの戦略を規定しています。ESD を推進するメカニズムとして、各国において ESD の責任者が目標を設定する一方、グローバルレベルでは、ユネスコが事務局を設置し他の国連機関のパートナー等と連携を図ります。評価・モニタリングについてもユネスコが責任を持ちます。GAP へは世界中から 363 のコミットメントが寄せられました。ユネスコだけでなくすべてのステークホルダーが主体として関与していくことが重要です。第一フェーズの中間報告が 2017 年に、最終報告は 2019 年に予定されています。ユネスコは、2015 年 5 月に韓国で開催される世界教育フォーラムで、ESD がポスト 2015 年行動枠組みに完全に組み込まれるために全力を尽くします。



## オ. 丹羽秀樹文部科学副大臣 閉会の辞(要約)

今回の世界会議で取りまとめられたあいち・なごや宣言は、ESD の重要性を確認し、今後の ESD の更なる推進に向けて、加盟国、ユネスコ、全てのステークホルダーへ呼びかけを行う内容となっています。我々一人一人の行動が、今後の ESD、ひいては今後の地球全体の持続可能性を決めていくことになる、改めて肝に銘じる必要があります。

GAP のコミットメントの発表がありました。日本政府としても、全世界の中で ESD に関する優れた取組を表彰する「ユネスコ／日本 ESD 賞」の実施等を通じて、国内はもとより、世界中の ESD の推進に積極的に取り組んでまいります。



## カ. チェン・タン ユネスコ教育担当事務局長補 閉会の辞(要約)

150 か国・地域\*から 1,000 名以上の方が参加し、閣僚級も 76 名の出席がありました。ユネスコの教育セクターの事業で、近年これだけの方が集まる会議はありませんでした。今回の会議は国連 ESD の 10 年を終えるのにふさわしい会議となりました。更に ESD をスケールアップし、弾みをつけることもできました。この会議は大きな成功をもたらしたと考えています。「あいち・なごや宣言」を採択し、世界中の方々から ESD への多くのコミットメントをいただきました。世界会議が正式に、また成功裡に終了したことを宣言します。



※2015 年 2 月 20 日時点の集計では、「153 か国」。

## キ. 「ESD あいち・なごや子ども会議」出席者によるパフォーマンス

ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会が主催した「ESD あいち・なごや子ども会議」の代表者 18 名が、11 月 10 日(月)の同会議の全体会議で決定したメッセージを発表しました。

※メッセージは「第二部 参考資料 42」参照



代表者スピーチ



メッセージ発表



左: 河村たかし名古屋市長、右: 大村秀章愛知県知事コメントの様子

## (6) ワークショップ

11 月 10 日 (火) 16 時 30 分～18 時 45 分 名古屋国際会議場 (各ワークショップ用会議室)

クラスター I: 10 年間の成果から

### ア. ESD の概念: これまでの道のり、今後の展望

コーディネーター: ローズ大学(南アフリカ)、国立教育政策研究所(日本)

概要:

国立教育政策研究所によって、学校における ESD の枠組みと ESD の概念と歴史に関するプレゼンテーションが行われた後、同研究所の ESD の枠組みを、ESD の概念の基礎資料として用いて、ESD がどのように学習と社会変化に関わるかについてグループワークで議論しました。様々な分野における GAP への寄与と ESD の促進に関する提案についても小グループで意見交換を行いました。



### イ. 我々の望む未来に向けて: ESD と政策

コーディネーター: 南アフリカ野生生物・環境協会(アフリカ南部開発コミュニティによる地域環境教育プログラム(SADC-REEP)代表)、ベトナム教育訓練省

概要:

グローバル・アクション・プログラム(GAP)が今後広まっていくことを目指して、国際、地域、国家レベルで ESD の政策を計画し実行する際の成功や挑戦、ESD の政策・実践の未来の姿を議論しました。ESD の優良実践事例を検証するとともに、ESD における政策形成プロセスの分析が行われました。成功した施策形成において、どのようにトップダウンとボトムアップの方法が組み合わされたのかなどが話し合われました。



ウ. 未来を共有する質の高い教育と学習:グローバル開発目標においてESDが果たす貢献とは  
コーディネーター:スウェーデン持続可能な開発教育のための国際センター、世界教育キャンペーン

概要:

「国連ESDの10年」の間に、国際的に合意した開発計画及びアジェンダと関連する学習成果において、どのような内容や方法が違いをもたらしているのか、また、成功したアプローチとそうでなかったものとの間にどんな特徴が存在するのかについて議論しました。グローバル・アクション・プログラム(GAP)の枠組みの中で、どのような具体的な提案ができるのかについてグループに分かれて話し合いました。具体的には、ESDに触発された教育や学習プログラム/アプローチの中に地球規模の開発目標に対する行動をどのように組み込むか、また、地球規模の開発目標の実行のための強力な方法としてESDをどのように組み込むかというテーマについて意見交換しました。



エ. セクターと地域を超えた学び:ローカル・イニシアティブとマルチステークホルダー・ネットワークによるESDの拡大と主流化

コーディネーター:国連大学サステナビリティ高等研究所、アラブ首長国連邦アブダビ環境庁  
概要:

多様なステークホルダーによるセクターを超えた連携が、個人の行動や社会変容にいかに関与しているかという点に着目し、国連大学が主導するESDに関する地域拠点(RCE)、アラブ首長国連邦アブダビ環境庁のサステナブル・スクール、イクレイの都市プロジェクトの事例が紹介されました。小グループによる対話型セッションでは、ESDの実践における地域住民の積極的関与と当事者意識の必要性や教育と地域課題における関連性、情報・知見を戦略的に共有する手法について意見交換された他、持続可能な開発に関するアジェンダにおいて教育の役割を強化する上でも、連携による学びの経験が有効であることが強調されました。



オ. 飛躍的な移行を可能にする倫理に根ざした教育イノベーション

コーディネーター:ユネスコチェア「社会的学習と持続可能な開発」ワーゲニンゲン大学(オランダ)・ゲーテンベルグ大学(スウェーデン)、国連平和大学 持続可能な開発のための教育 地球憲章センター(コスタリカ)

概要:

代替的な価値、創造的な解決策によって新しい考え方を導く学習が、更なる持続可能な世界を創造するために求められています。このような学習を基礎とした変革は、地域の現状を批判的に調査することや現状に影響を与える地球規模に広がる力によって、人々と地球を再びつなぎあわせることに資すると考えられます。科学、社会、ビジネスにおいて持続可能性への関心は高まっていますが、持続可能性が、元々の考え方から離れて、一切適切を含むコンセプトとし



て考えられているかもしれません。これを避けるため、ESD は、人々と地球にとってお互いに非常に良い状態という点に焦点を合わせる必要があります。

#### カ. 官民両セクター間の効果的な ESD パートナーシップの原則

コーディネーター: プビヤン銀行(クウェート)、アマナ・キー・グループ(ブラジル)

概要:

大きな組織の管理及び戦略分野の変革の方向性に合わせた幹部教育プログラム、また ESD に関する行政と民間のパートナーシップの例について意見交換を行いました。ブラジルでの具体的な幹部教育プログラムの実例やクウェートにおける銀行の支援を得た学校を拠点とした ESD のイニシアティブの例を踏まえながら、地域、国家、国際レベルのそれぞれにおいて、すべての社会の部門間で、効果的なパートナーシップをどのように確立すべきかについて議論しました。



#### キ. モニタリングや評価は、どのように ESD に変化をもたらすのか

コーディネーター: DESD モニタリング・評価専門家グループ、国際連合欧州経済委員会、公益財団法人地球環境戦略研究機関(日本)

概要:

グローバル・アクション・プログラム(GAP)の効果的な実施のための教訓を導き出すことを目的にして、まず国連 ESD の 10 年の間に取り組みされたモニタリングや評価への理解や経験を共有しました。ステークホルダーが、機会をマッピングし、主要な挑戦を見極め、GAP のモニタリングと評価の際に推奨することについて意見交換しました。



11 月 11 日 (火) 11 時~13 時 15 分 名古屋国際会議場 (各ワークショップ用会議室)

クラスターII: 万人にとってより良い未来を築くための教育の新たな方向付け

#### ク. 乳幼児のケア及び教育・発達支援のための ESD イニシアティブの策定

コーディネーター: 世界幼児教育機関、アフリカ教育開発協会

概要:

すべての国の乳幼児期のケアと教育において、ESD の確立が、理論的かつ非常に重要であることを確認していくため、参加者が意見を出し合いました。世界中の特定の地域への適合性の問題に焦点を当て、グループ討論を行いました。参加者自身の国の行動を考慮に入れながら、持続可能な開発へ厳しい挑戦に立ち向かっている国への支援についても議論しました。



## ケ. 子供たちが変化をもたらす:初等・中等教育

コーディネーター:チリ教育省、スワジランド環境庁

概要:

世界中の戦略と克服しなければならない挑戦について見極めるため、変革をもたらすための行動について意見交換を行いました。個人や家庭での実践を変化させる個人のレベル、学校を真に持続可能な開発モデルとして変化させるための機関のレベル、持続可能な地域社会を創造するために地域社会のレベルのそれぞれにおいて、学生、教員、学校の管理者、家族毎の役割や責任について詳細な検証を行いました。



## コ. 高等教育と研究を通じて世界を住みやすい場所に変える

コーディネーター:国際大学協会、リオ+20 高等教育持続可能性イニシアティブ/国連環境計画(UNEP)

概要:

高等教育が、世界に向き合っどどのような挑戦を取ってきたのか、国連 ESD の 10 年の開始時期、また 2009 年のボン会議、リオ+20 の時から、どのように変化を促すプロセスが実行されてきたかを共有しました。グローバル・アクション・プログラム(GAP)の支援として、将来求められるステップや現在行われている活動について議論しました。



## サ. 環境に配慮した技術職業教育訓練:持続可能な開発の潜在性を引き出す

コーディネーター:ユネスコ国際職業技術教育訓練センター/TVET 機関間作業グループ、モーリシャス訓練・開発機関

概要:

小島嶼開発途上国を前提に職業技術教育・訓練を通して、グローバル・アクション・プログラム(GAP)のさらなる実施、スムーズな移行の媒介としての職業技術教育・訓練の評価、また環境に配慮した仕事に求められるスキルについて、機関間の協力や経験に重点を置いて意見交換を行いました。



## シ. 教員養成:刻々と変化する世界に貢献する ESD

コーディネーター:国際理解のための教育アジア・太平洋センター、エデュケーション・インターナショナル、教員教育機関国際ネットワーク

概要:

教員養成は、初等、中等教育に変化をもたらすために、緊急性を認識しつつ進めていかなければなりません。持続可能性に取り組むための教員養成を再方向付けするための最新の取組と、その教訓や挑戦を参加者間で情報共有を図りました。また ESD を実践していない教員養成機関を今後関わらせていくために、グローバル・アクション・プログラム(GAP)のための教員養成活動において、推薦すべき事項を



意見交換しました。

## ス. 地域社会の取組:持続可能な開発のための生涯学習

コーディネーター:ユネスコ生涯学習研究所、岡山市

概要:

「ESD 推進のための公民館-CLC 国際会議(岡山市)」の成果文書「岡山コミットメント2014(約束)」が共有された後、岡山市の公民館やインドネシアのCLC(コミュニティ学習センター)におけるESD 推進の枠組みや事例が紹介されました。グループ討議では、ESD の更なる推進に向け、地域に根差した学びの場を活用した多様な立場・世代の人々による対話の促進や、地域住民の自主性向上及び、政府や地方自治体による支援強化等が重要との発言がありました。



## セ. 情報通信技術(ICT):ESD に改革をもたらすアプローチ

コーディネーター:持続可能な開発のためのヤング・マスター・プログラム(スウェーデン)、ユネスコチェア「持続可能な開発のための教育・訓練・研究」ボルドー第三(ミシェル・モンテーニュ)大学(フランス)

概要:

情報通信技術やeラーニングは、全ての人に情報提供を可能とするツールであり、ESD に取り組んでいく際の場所、時間、方法に非常に重要な影響を与えています。ESD が直面する主な挑戦として、ESD のすべてのレベルに情報通信技術やeラーニングをどのようにより良く組み込んでいくのか、十分なデジタルリテラシーを大部分の人々に獲得してもらうためにはどうしたらよいか、ユースの知識、新しいテクノロジーや教授法によって学習やトレーニング環境を変化させるために、どのようにユースを利用していくべきか、などの点について意見交換しました。



## ソ. 世界遺産と芸術教育:文化的感性を育む ESD

コーディネーター:芸術教育研究国際ネットワーク、ユネスコ世界遺産センター

概要:

文化は、持続可能な開発にとって不可欠な推進力であり実現を可能とする力です。主要な持続可能な開発の問題を学習プロセスに組み込むために、世界遺産教育や芸術教育が効果的で革新的な方法をどのように提供できるかという点について議論しました。フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマル部門において優良事例を共有し、革新的かつ具体的で効果的な活動を発達させていく際の重要な挑戦について検討しました。



## タ. 21世紀の教育への実務的アプローチを検証:グローバル・シティズンシップと環境教育学、持続可能な開発

コーディネーター: 米国カリフォルニア大学パオロ・フレイル研究所、ブラジル パオロ・フレイル研究所、欧州評議会南北センター

概要:

持続可能な開発やグローバル・シティズンシップの主要な構成要素に対して良く考えられた実践的なアプローチを検討していくことを目的に、参加者間で、理論、概念、教授法について議論し、考え、評価しました。地球規模の広がりを持ったアプローチを考慮に入れながら、ESDとグローバル・シティズンシップを発展させるための具体的かつ実践的な行動の計画を立てることに焦点を当て意見交換を行いました。



## 11月11日(火) 15時15分~17時30分 名古屋国際会議場 (各ワークショップ用会議室) クラスターⅢ: 持続可能な開発に向けた行動促進

### チ. 水の教育とキャパシティビルディング:水の安全保障と持続可能な開発

コーディネーター: ユネスコ国際水文学計画、ユネスコチェア「水、女性・決定権」 アル・アハワイン大学(モロッコ)

概要:

水の確保のための価値、知識、スキルの獲得や水資源の管理や支配の能力は、水への持続可能なアクセスを可能とするものです。国連ESDの10年の間に達成されたことを考慮に入れて水の教育の現況を評価し、国際的に合意された目標を踏まえて前進していくための方策の見極めを参加者で行いました。水の専門家への教育、水の技術者への研修、学校における水の教育、政策決定者、地域社会、ステークホルダー、マスメディアの専門家に対する水の教育について推奨していくべきことを意見交換しました。



### ツ. ひとつの地球、ひとつの大洋:ESDと海洋知識

コーディネーター: 政府間海洋学委員会、世界大洋ネットワーク

概要:

スピーカー始め参加者から、世界の人口の44%が沿岸に住んでおり2030年には更に増える可能性があるため、もっと資源を大切に使い再生可能を目指すべき、人が生きるための安全保障(エネルギー、食料等)は環境より重要である、海洋は資源であり食料、仕事、経済成長の基本であるなどの意見が出ました。他の主体に何をしたいかをグループで15分ほど議論して紙にまとめ、コーディネーターが議論の結果を世界会議の全体報告者に伝えることになりました。





## テ. 再生可能エネルギー:自給自足とESD

コーディネーター:電気工学・電子工学技術学会、エミレーツ環境グループ

概要:

エネルギーの需要によって、多くの場合、環境や人類にとって最適の状態に対してマイナスの影響が及びます。教育によって環境を守るためには、優良実践事例が効果的です。このテーマはエネルギー部門における教育機会の拡大と関わっており、スピーカーからは、持続可能な社会への希望をかなえるために、再生可能エネルギーの発展についての展望が情報提供されました。明確に再生可能エネルギーに焦点を当てつつ、持続可能なエネルギーの発展への理解を深めるために、教育システムの必要性について議論しました。



## ト. 学校と保健:ESD のマイクロ・エコロジー

コーディネーター:世界保健機関(WHO)、FHI 360

概要:

優良事例を紹介し国家及び学校レベルでの主要な挑戦を議論しました。適正な政策や制度を開発し、実施していくために、経験に焦点を当てつつ、今後の道のりを切り開いていく必要があります。持続可能な開発に貢献するために、水と衛生、食物と栄養、環境、その他の条件の中で変化の効果を上げるために、学校のスペースを利用しながら、持続可能な基礎の上で前向きな反応のループを創り出していく必要があります、そのための具体的な行動を促進していかなければなりません。



## ナ. フォーマル・ノンフォーマル・インフォーマル教育:農業と食料安全保障における大小プロジェクトの実施

コーディネーター:ヘリオポリス大学セケム持続可能な開発部門(エジプト)、国連食糧農業機関(FAO)

概要:

農業部門における経済的な進捗は、貧困者の収入の増加、食料の安全性の増加、ユースの就業機会の創造の点で、非常に重要です。持続可能な農業の発展を達成するために、農業、食料の安全性、フォーマル・ノンフォーマル・インフォーマル教育の間のつながりに焦点を当てて意見交換が行われました。様々な国から具体的な優良実践事例やアプローチが紹介されました。

## ニ. 生物多様性の政策・運用を促進する重大な手段としての ESD

コーディネーター:国際自然保護連合、国連生物多様性条約

概要:

2010年、愛知県で開催されたCBD-COP10において名古屋議定書、愛知目標の採択など多くの重要な決定が行われていることを踏まえ、生物多様性とESDに関しては三つの重要な国際的な枠組みがあることが確認されました。SDGs、ESDのグローバル・アクション・プログラム(GAP)、CBDの愛



知目標の枠組みの中で行動することが大事であり、それぞれの枠組みに有機的な連携、取組を求めることが重要であるとの認識が示されました。

## ヌ. 気候変動に対応した低排出型社会の基盤を築くための教育

コーディネーター:ドミニカ共和国気候変動国家委員会、国連気候変動に関する教育・訓練  
国民意識のための同盟(事務局:UNFCCC)

概要:

気候変動に関する取組について、我々には残された時間はなく、行動を起こすことが何より重要であり、そのため  
の市民への教育は喫緊の課題であるとの認識のもと、グ  
ループ討議が行われました。世界的な認知度を高めるべ  
き、環境問題と経済との繋がりや災害の削減といった観点  
から政府を説得すべき、気候変動の政策策定にあたって  
は、現状の教育に則したものとすることが重要、といった  
意見が出されました。



## ネ. 防災と持続可能な地域社会を構築するための教育

コーディネーター:自然災害モニタリング・警戒のためのブラジル・センター、ブラジル科学技  
術省、教育セクターにおけるDRR知識・復興のためのグローバル・アライア  
ンス(代表:国連国際防災戦略(UNISDR))

概要:

ブラジル、ラオス、ニュージーランドなどからプレゼンテ  
ーションが行われた後、質疑応答が行われました。災害を  
なくす、又は減らすために教育は不可欠である、防災教  
育において女性の役割は大きい、2015年以降の兵庫行  
動枠組みにおいてもこれらの要素が考慮されるべきという  
意見が出ました。一方、人的及び財政的な資源が不足し  
ている、防災教育においてはジェンダーや経済格差の要  
素を踏まえる必要がある、教育が具体的にどう防災を組  
み込むかということとは簡単ではないという発言もありました。



## ノ. 持続可能な消費と生産 (SCP)のための教育:ユースの強化と動員

コーディネーター:国連環境計画(UNEP)、マクズミ財団(レバノン)

概要:

リオ+20では、持続可能な消費と生産が、持続可能な開発のための三つの分野横断的な  
目標の一つであり、欠くことのできない必要条件であることが再確認されました。持続可能な  
消費と生産の型や一層持続可能な生活様式を採り入れることを促進する際、教育は、主要  
な役割を果たします。持続可能な消費と生産に関する教育とスキルに関する成功事例と世  
界中の生活様式の情報を共有しつつ、ユースに焦点を当てて、持続可能な消費と生産10  
年枠組み(SCP/10YFP)における持続可能なライフスタイルと教育(SLE)実施への行動の提  
案をまとめるために、参加者同士での議論を行いました。

## ハ. 環境にやさしい経済:2014年以降にESDが果たすべき役割

コーディネーター:アジア開発銀行、南アフリカ大学

概要:

持続可能な開発及びその探求の際の就業の創造や貧困撲滅に向けた運動の潜在性と証拠について情報提供が行われました。すべての状況に合う万能な方法というのは存在しないということを頭に入れつつ、人類の幸福度を高めるために環境にやさしい経済を約束する市民、知識を持ち、教育を受けた地球規模の市民を育成する行動可能なアイデアについて意見交換を行いました。

## ヒ. 学習都市:新しい都市アジェンダにおけるキャパシティビルディング

コーディネーター:国連人間居住計画(UN HABITAT)、メキシコ市

概要:

2015-2016年のための“新しい都市のアジェンダ”の採択が今議論されていますが、これは社会、経済、環境の面に持続可能性を取り入れることを目指しています。「都市はどのように学ぶことができるか」という問いと、「この問いとその回答は、“新しい都市のアジェンダ”にどのように含むことができるか」という点について議論しました。



11月12日(水) 11時~13時15分 名古屋国際会議場(各ワークショップ用会議室)

クラスターⅣ: 2014年より後のESDアジェンダの設定

### フ. 21世紀型能力を育み、評価し、促進する

コーディネーター:ユネスコチェア「持続可能な開発のための高等教育」リューネブルク大学(ドイツ)、メルボルン大学教育大学院、アジア・太平洋教育の質モニタリング・ネットワーク(NEQMAP)

概要:

コーディネーターの研究成果の報告が行われた後、グループディスカッションが行われました。研究成果では、21世紀型能力を育むことは現在のトレンドとなっているものの、何をもって21世紀型能力とするかについては、国によって異なるとの前提で行われた研究が報告されました。グループディスカッションでは、コミュニティ形成能力(組織形成力)、積極的姿勢、応用力、未来を予期する力、共感する力、柔軟性、対話する力、システム思考などの必要なスキルは既に存在しており、その中から真に必要なスキルを選択することが21世紀型能力として欠かせないとの意見が出されました。



### ヘ. 2015年以降のESD:政策から運用まで

コーディネーター:カナダ教育省委員会、カリブ共同体(CARICOM)

概要:

カナダ、コスタリカ、カリブ共同体、UAEの4名のキースピーカーから事例発表の後、グループディスカッションが行われました。政策的支援の面では経済団体と相互利益が生じるようにする、機関包括的支援の面ではESDのためのインフラを作ることが重要であるとの意見もありました。教育者の育成の面ではモニタリング、指



標が必要である、ユースの参加支援の面では政府へユースの声を届け、政府からもフィードバックすることが有効である、との発言がありました。地域コミュニティの支援として長期的な資金の必要性も語られました。

#### ホ. ESD と持続可能な開発目標 (SDGs) の達成

コーディネーター: インド環境教育センター、国連経済社会局

概要:

現在、持続可能な開発目標 (SDGs) に関する国連総会のオープン・ワーキンググループによって提案された SDGs の目標の中に ESD が含まれています。この提案された目標の中にある ESD の構成要素を分析し強調すべく意見交換を行いました。SDGs によって設定された目標の達成を可能にするものとして、ESD の役割を強化する方法を探ることに焦点を当てました。また SDGs のプロセスとグローバル・アクション・プログラム(GAP)がお互いにどのように影響し合うのかという点についても議論しました。



#### マ. ESD における現地イニシアティブ: 持続可能な将来に向けた行動推進

コーディネーター: ドイツユネスコ国内委員会、ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会、RCE 中部(中部大学)

概要:

ドイツと日本の地域での取組の発表があった後、フィッシュボウル形式での討議が行われました。日本の東海・中部地域の取組から、多様なステークホルダーの参加による、河川の流域圏を活動対象地域とした ESD の推進モデルが紹介され、生命地域 (Bioregion) 単位で ESD 活動を行うことが重要であるとの考えが示されました。ドイツのハンブルグ地方自治体の取組から、持続可能な開発(SD)は政策的でなければならない、市長は教育関係者だけではなく一般市民に語る必要があるとの教訓が発表されました。ESD はそれぞれの地域によって違う、主要なステークホルダーのアイデアを明確にしていく必要がある、評価が必要であるとの発言があり、最後にネットワーク間の連携とその質が大事であることがまとめとなりました。



#### ミ. ESD に対する全機関的アプローチ

コーディネーター: 環境教育基金(デンマーク)、モハメッド 6 世環境保護基金(モロッコ)

概要:

政府、学校、高等教育、市民社会、地方自治体、ビジネスの6分野各1名のプレゼンテーションと質疑応答が行われました。地方自治体のプレゼンテーションは大森岡山市長が行いました。取組を波及させる必要性、教育の刷新、ユースの主体性が重要との意見や学生主導型のエコスクールプログラムの取組の報告が行われました。難しい課題があったとしても持続していくことが重要で、ESD を市民に普及し、教育機関間で競争させることが重要との意見も発表されました。



#### ム. ESD を支援する人間関係

コーディネーター:新ビジョン教育プロジェクト/世界経済フォーラム、教育のためのグローバル・パートナーシップ

概要:

4人のコーディネーターより問題提起がされた後、グループディスカッションが行われました。地方自治体内部の政治的意思が明確であることの重要性、ESD 非実施国と実施国の連携、ESD 推進に向けたソーシャルメディアの活用、資金だけでなく人的リソースについての多国間における連携・共有の重要性、ユネスコから各国・学校への支援に対する期待等について情報交換が行われました。



#### メ. グローバル・アクション・プログラム(GAP)におけるモニタリング・評価:規模、質、優先課題

コーディネーター:国際教育到達度評価学会、タリン大学政治・ガバナンス研究所(エストニア)

概要:

コーディネーターのスピーチの後、グループディスカッションが行われました。GAPには多くのステークホルダーがいるが、NGOがより活用されるべきであること、予算の確保が必要であること、モニタリングの指標の開発にあたっては各国や地域の特性を考慮し各々の状況に対応した指標を作るべきであることなどが挙げられました。ユースの参画について、ユース・インデックス(様々な機関から情報を集めてまとめるデータハブ)を作成する、政府や企業がユースのリーダーコンテストを行う、といったアイデアも出されました。



### (7) サイドイベント

11月10日(月) 12時15分~13時45分 名古屋国際会議場(各サイドイベント用会議室)

#### ア. 未来構築のための検証:価値基準に照らしたESD経験から得る教訓

主催:地球憲章インターナショナル

概要:

ESDの取組を基盤とした19の貴重な優良実践が紹介されている出版物「The heart of the matter」が発表されました。地球憲章アジア太平洋・日本委員会は、地球憲章に書かれている価値を漫画やミュージカル等により平易な言葉で発信しており、今回は漫画が紹介されました。また、様々な教育環境に持続可能性の価値を吹き込む効果的な方法について討論されました。各地域における理念の適応や解釈を可能にするためには、その地域が置かれた状況や背景に着目する必要性が述べられました。さらに公的機関の幹部や民間企業の経営陣などへの研修を30年間行ってきた経験から得た教訓の共有も行われました。

#### イ. グローバル・シティズンシップの若手リーダー

主催:ドイツ国際協力公社(GIZ)、マハトマ・ガンディー平和と持続可能な開発のための教育機関(MGIEP)

概要:

フォーマル教育と地域社会の間におけるユースの組織と提携による経験と強みを活かし

つつ、グローバル・シティズンシップと持続可能な開発のためのユースのリーダーシップを推進していく際のコミットメントについて情報交換を行いました。ユースは、「地域(local)と地球規模(global)の両方のチャレンジに焦点を当てたいと思っている」、「問題解決のため具体的な影響を及ぼしたい」、「問題解決に当たっては緊急性の意味合いを考慮に入れるべき」などの意見が出されました。MGIEPと多くの国際的なパートナーによって推進されているYESPeace ネットワークの開始についても情報共有されました。



## ウ. 気候変動教育に一丸となって取り組む国連

主催: 国連気候変動に関する教育・訓練・国民意識のための同盟

概要:

主催者からは GAP へのコミットメントの発表、ユネスコからは近く発表される「持続可能な開発に対する気候変動教育の実体(国別ケーススタディ)」の内覧、国連食糧農業機関(FAO)から行動指向のノンフォーマル教育を通じた行動変化の育成に関するスカウト活動における地球規模でのパートナーシップの紹介などが行われました。今後の方向性についての主な意見として、ESD を実施できる環境を創り出すため、また、全体の変化をもたらすために、ESD を教育や持続可能な開発政策の主流化としていく必要がある、教育や研修の設定段階において持続可能性の原則を組み込んでいくべき、ESD の効果的な普及のために教員やトレーナーの能力を高めるべきなどが挙げられました。



## エ. ESD 実施を成功させる前提条件としてのパートナーシップ

主催者: 中東欧地域環境センター(REC)

概要:

REC の 14 年間の ESD 推進活動の成果として、18 か国の学校制度向けのグリーンパック教育プログラム、中東欧政府及び独立国家共同体(CIS)の高官向けの持続可能な開発の学習コース、環境分野の若者リーダー向けの持続可能な開発トレーニングプログラムなどの発表がありました。ハンガリー人材省、アルバニア共和国教育スポーツ省、モンテネグロ教育省から、グリーンパックプログラムへの評価、各国機関におけるさらなる ESD の推進へのコミットメントについて発表が行われた後、イタリア信託基金から西欧の一政府のドナーの見解として、ESD の支援について発言がありました。セルビア、コソボ、モンテネグロにおける ESD 改革の継続、西バルカン諸国における ESD 活動の拡大、教員研修と ESD 普及ツールの開発と実施、地域社会やビジネス界とのパートナーシップ、REC の活動の経験を他の新しい国々へ普及させるパイロット活動などの重要性が述べられました。

## オ. ESD においてなぜジェンダーが重要であるか

主催者: お茶の水女子大学

概要:

ジェンダーと ESD の接点を確認し、ポスト 2014 年 ESD 活動にジェンダーの視点が反映されることを目的としました。ユネスコのビデオメッセージ “ESD and Gender-The Nexus for

future”の後、11月1日に開催されたお茶の水女子大学/国連大学共催国際シンポジウム“サステナビリティとジェンダー”の報告、ドイツや神奈川大磯町での地域社会における放射能線量測定に係る女性・市民運動やエネルギー政策転換の事例報告、国連人口基金からの人口と開発の観点からの持続可能性に関する議論と関連活動の紹介、さらに、ポスト2015年アジェンダとEFAにおけるジェンダー平等目標の位置付けに関する報告もありました。このイベントの成果として、グローバル・アクション・プログラム(GAP)の優先5分野におけるジェンダー関連の活動案が提出されました。



### カ. ESD と災害リスク軽減のための教育

主催者: 京都大学

概要:

ESD と減災教育との相乗効果をテーマに、文部科学省の行政施策、宮城教育大学の学校危機管理、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)の国際的な連帯についての研究や取組が発表され、東日本大震災の教訓に基づき、減災や復興プロセスにESDが果たした役割や貢献が世界に発信されました。特に、ESD先進地で被災地でもある気仙沼市において京都大学と連携して研究実践されている「ESDを理念とした減災教育プログラム開発」や「災害レジリエンス学校調査(SDRA)」の実績を通じて、ESDとの相乗的な減災・復興の教育実践とその効果を科学的に実証する調査研究の重要性が強調されるとともに、それらを持続的に推進するため、産官学による連携体制の構築の必要性についても共通認識が得られました。



### キ. ESD を成功させる環境整備: アジア及びアフリカにおける学校ベースの経営(SBM)の実践

主催者: 国際協力機構(JICA)

概要:

学校運営の取組は、就学率改善・学習成果のEFA目標に貢献し、また学校・地域の協働など、ESDの好事例を生み出すことを発表し、JICAが支援しているニジェール、ネパールの学校運営改善の具体例を紹介しました。ネパールの教育大臣からは、ボトムアップの参加型による学校運営によって学校やコミュニティのオーナーシップが高まり、現場のニーズを政策に反映させ、あらゆるレベルで協働していくことが、ESDにつながっていくことが力説されました。



### ク. 持続可能な開発(SD)のための教育とジェンダーの格差の是正ーポスト2015教育アジェンダに向けて

主催者: 外務省、文部科学省

概要:

シャバナ・バシージ=ラシーフ・アフガニスタン指導者学院長の基調講演では、タリバン政

権下でも命の危険を賭して子女に教育を行おうとするアフガニスタン人男性像を紹介した上で、いまだ偏見が根強いアフガニスタンでの女子教育の重要性と自らの決意を訴えました。基調講演後、ジェンダー格差とESDに関するパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、アフリカにおけるジェンダー格差、教育に関する問題が指摘され、国際的に重要な教育目標の一つである「ジェンダー格差の是正」は社会に変革をもたらすESDにとって不可欠の前提条件である、と総括されました。



11月11日(火) 13時30分~15時 名古屋国際会議場(各サイドイベント用会議室)

#### ケ. 初等・中等教育におけるアフリカと日本の間のESD協力

主催者: 南アフリカ ケープタウン大学(学校開発ユニット)

概要:

南アフリカと日本の大学の支援を得ながら、この両国の初等・中等教育の理科教員の間で5年間にわたって行われてきた、教室で応用できるESDの共通学習モジュールの共同開発の結果が報告されました。共同開発を行ったESDの学習モジュールや、国際チームティーチングなどの新たな共同学習のアプローチ等、プロジェクトの成果が共有されました。プロジェクトの実践風景の上映、両国のプロジェクトチームによる見解、評価の発表、参加者との質疑応答が行われました。

#### コ. 気候変動への対応を担う子供とユースの参加—行動を促進する双方向的な学習メソッドの役割

主催者: プラン・インターナショナル

概要:

アジアや太平洋州の14か国で行われている子供を中心とした気候変動対応プロジェクトの評価を共有することで、安全で強靱な地域社会を作っていくためには、子供とユース自身が経験に基づいたESDを主体的に実施し関わっていくことの重要性が強調されました。ユースや子ども達の意見を題材にしなが、参加者同士の経験や提案が意見交換されました。

#### サ. より持続可能な消費・生産システムの開発と持続可能な生活習慣におけるマルチステークホルダーの学習イニシアティブの役割

主催者: オーストリア科学・研究・経済省、教育・女性省、農林・環境・水利省

概要:

様々な意見交換をする中で、RCEのような一地域の取組と地球規模の問題をつなげることが出来るマルチステークホルダー・ネットワークの果たす役割は大きいという共通認識が得られました。また生産者、消費者として、生産、消費、廃棄を含む製品のライフサイクルの中で発生する廃棄物の副産物やそのサイクルの中で求められるすべての資源を認識しつつ、製品のライフサイクル分析を行うことは重要との意見も出ました。インセンティブを動機付けとするなど、消費者の振るまいやビジネス界での生産の実践例を形作る際に、何らかの報酬を提供することも必要ではないかとのアイデアも出されました。



## シ. ハンドプリントー持続可能性への行動:経験の共有と新たなパートナーづくり

主催者:環境教育センター(インド)

概要:

持続可能性への積極的な行動の国際的な象徴であるハンドプリントの促進に関して、①教育が持続可能性に与える影響を知る手段となること、②教育を通して積極的な行動を取るための能力向上に焦点を当てたアプローチであること、③若者を含む関係者による行動を促す手段となること、④二酸化炭素排出量の脅威から逃れることを通じて、革新と創造性を促進する手段となること、⑤持続可能性への積極的な行動に対して協力的に貢献するグローバルなハンドプリントのネットワークを構築すること、といった点について賛同を得ることができました。



## ス. 国連持続可能な消費と生産に関する10年枠組み(10 YFP)持続可能なライフスタイルと教育プログラムの開始

主催者:国連環境計画(UNEP)

概要:

このイベントにおいて、リオ+20で採択された「持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組み(10YFP)」の持続可能なライフスタイルと教育プログラムの開始を正式に発表されました。このプログラムは、世界中のすべての国において持続可能な消費と生産に向けた変化を促進させ、国際的な協力を育成させていくものです。持続可能なライフスタイルと教育は、持続可能な開発を達成するために求められる変革的かつ構造的な変化を構成する非常に重要な要素です。ユネスコと国連環境計画(UNEP)(10YFPの事務局)によって支援され、かつ、広範に協議され全般的にマルチステークホルダーを巻き込んだプロセスを経たこの10YFPのプログラムの主要な目的と焦点が当てられた分野が紹介されました。

## セ. 新たな時代のESDとグローバル・シティズンシップ教育

主催者:公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)、ユネスコ・アジア太平洋国際理解教育センター(APCEIU)

概要:

本世界会議の議論を2015年5月の世界教育フォーラム(韓国)や持続可能な開発目標(SDGs)に関する議論へとつなげるために開催しました。2014年5月のグローバルEFA会合(オマーン)で採択されたマスカット合意において、今後の教育に関する七つの目標のうちの一つに、「グローバル・シティズンシップ教育(GCE)とESDなどを通じて、2030年までにすべての学習者が持続可能で平和な社会を確立するための知識、スキル、価値観、態度を、習得すること」が挙げられていること、また、SDGsのオープン・ワーキンググループによる案に同様の目標が挙げられていることを強く意識して、名古屋大学 山田肖子教授のコーディネーションのもと、日本と韓国の国際教育開発研究者が、ESDのモニタリング評価についてのこれまでの成果を踏まえ、ESDとGCEのモニタリング評価のために指標の開発が必要であるとの議論が行われました。



## ソ. 日本におけるESDの成果と今後

主催者:環境省

概要:

日本における環境分野のESD及び環境教育の取組とその成果について、環境省及び関係団体等官民合わせた様々なステークホルダーにより、高度経済成長期に大きな問題となった水俣病等の公害や東日本大震災をはじめとした自然災害など、これらの問題を通じてどのようなESDの取組を実施してきたのか、経験を広く国内外に発信しました。また、環境省における2015年以降のESD推進方策(「人材の育成」、「教材・プログラムの開発・整備」、「連携・支援体制の整備」)の三つの重点的な取組事項を中心に、引き続き環境教育・ESDの推進を更に充実させていく方針)について表明し、参加者に対して連携・協力を呼びかけました。



## タ. ESDの促進のための市民社会の取組 – 市民社会と民間企業のパートナーシップを重視したマルチステークホルダーアプローチ

主催者:ESD-J

概要:

ESD-J、経団連自然保護協議会、広域の中間支援組織である中部環境パートナーシップオフィス、ローカルな活動団体である岡山市京山地区ESD推進協議会から、ESD推進の取組が発表され、会場と議論しました。学校と地域の連携、市民イニシアティブ、企業の持続可能な開発(SD)への取組、マルチステークホルダーの連携促進、そのための仕組みづくりの重要性が強調されました。また日印間でのNPO及び企業のネットワークの交流が提案されました。



11月12日(水) 13時30分~15時 名古屋国際会議場(各サイドイベント用会議室)

## チ. 世界のフランス語圏の高等教育機関におけるESD

主催者:フランコフォニー国際機関(OIF)

概要:

フランス及びフランス語圏の高等教育機関におけるESD活動やアフリカ諸国に焦点を当てたフランス語圏の学校教育におけるESD活動が報告されました。基礎教育のための新しいフランス語圏機関の設立と連携しながら、ESDのための学校教育と地域社会の協力を強化していくこと、eラーニング・イニシアティブを拡大し、フランス語圏におけるデジタルキャンパスの数を増やすこと、グローバル・アクション・プラン(GAP)の機関包括型アプローチを参照しながらグリーンキャンパスを拡大していくことといった活動が参加者間で共有され同意されました。

## ツ. アフリカにおけるESD(ESDA)

主催者:ザンビア大学

概要:

アフリカにおける持続可能な開発のための高等教育の役割を推進するための革新的な方法について意見交換をしつつ、参加者同士で共有されたものを普及させ、また、今後のアフリカにおけるESDプログラムの展望を共有していくことが合意されました。学際的かつ包括的な学習、クリティカルシンキング、フィールドワークや共同研究などの複数の方法による取組を推進するための高等教育におけるプログラムやイニシアティブの実施、次世代の研究者による知識の創造、交換、共有を進めていくことが提案されました。

## テ. グローバルアクション・プログラム(GAP)の促進:ESDに関する地域拠点(RCE)の貢献

主催者:国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)

概要:

国連大学サステイナビリティ高等研究所からRCEのこれまでの成果について紹介があった後、RCE関係者を含め参加者の間で、重層的な連携のあり方(地域内、地域を越えたRCE間、共通のテーマ・課題を通じた連携)やRCEがいかに変化しながら発展してきたかについて意見交換がなされました。GAPを通して2015年以降もESDを強化していくためには、関連する政策決定プロセスへの関与、若者の役割、先住民や地域に根ざした伝統知や世界観の尊重、マルチステークホルダー・ネットワークにおける能力開発や評価手法に関する研究、他の類似するネットワークとの連携強化など、様々な課題が挙げられました。



## ト. 地域行政におけるESDの実施ーグッドプラクティス

主催者:バスク政府(スペイン)

概要:

スペインのバスク地方、スリランカ、フランスのレユニオン島におけるESDの優良実践事例が紹介され、特に地方政府の役割を取り上げて意見交換しました。バスク政府、ESDのための地方政府ネットワーク、バスク地方のためのユネスコセンターが協力してこのイベントが開催されました。

## ナ. 地域政策のフレームワークを通じたESDの実施

主催者:国連欧州経済委員会(UNECE)

概要:

ESDに関する国連欧州経済委員会(UNECE)及び地中海戦略(MSES)の事業の実施とフォローアップについて、また、地域的なプロジェクトについて意見交換が行われました。今後の優先事項として、MSESのアクションプランの草案作成、ESD普及のための教育者の能力向上を強調するUNECE戦略及びMSESの実施、フォーマル及びノンフォーマル、インフォーマルなESDの協働のための環境づくり、ユースのESDの認識調査の実施等が挙げられました。



## ニ. 持続可能な大学に向けて

主催者:国連環境計画(UNEP)

概要:

中国、イギリス、スペイン、ブラジル、UAEの大学が、大学の持続可能性に関する事例やアイデアの発表を行うとともに、“Greening Universities Toolkit”の2014年版についても報告がありました。発表では主に、持続可能性の指標やネットワーク、出版物等の持続可能な大学に関する実施中の取組に焦点が当てられました。また、出版物“International Learning and Transformative Leadership for Sustainable Futures”についての発表も行われました。



#### ヌ. ブルーエコノミーのためのグリーンスキル:革新、雇用可能性、生涯持続可能性に関する技術職業教育・訓練(TVET)アジェンダ

主催者:南太平洋(サウスパシフィック)大学(フィジー)、教育技術研究及び開発の国際協会  
概要:

関連セクターや産業界において持続可能なスキルと定義付けられているグリーンスキルについて、また、‘Sustainable Learning Communities (SLCs)’のコンセプトについて理解の共有が行われました。教育と産業、先進国と開発途上国、コミュニティと雇用者等、TVETにおける様々なつながりや関係性の重要性が討論されました。また、ブルーエコノミーのためのグリーンスキルに関する新たなTVETのアジェンダに応えるため、実働コミュニティとなるネットワークの強化の必要性が話し合われました。

#### ネ. 市民活動に支えられる持続可能な市

主催者:愛知県豊田市

概要:

豊田市内の藤岡南中学校、豊田西高校、NGO オイスカ、豊田市による発表後、会場との意見交換を行いました。豊田市のESDの特徴は行政、教育機関、NGO、企業などの多様な主体が連携してESD活動を実施している点です。環境、防災、国際交流、科学など、地元で根差した幅広い分野で進めている中学校、高校の活動は会場からも高い評価を受けました。また、持続可能な地域開発、環境保全を目指し、国内外から研修生を受け入れているNGO オイスカからは、市域の7割を森林が占める豊田市の特徴を生かした人材育成などが報告されました。サイドイベント終了後は参加者との交流をはかり、発表者が国際的なネットワークを持つ機会を得ることができました。



#### ノ. ESD 関連テレビ番組の上映:「釜石の奇跡(日本)」、「明日に向かってダッシュ(エジプト)」、「通学路は大自然(スリランカ)」

主催者: NHK「日本賞」

概要:

映像を使用したプレゼンテーションとして、NHK「日本賞」によるESD関連番組の上映が行われました。「釜石の奇跡」(日本)、「明日に向かってダッシュ」(エジプト)、「通学路は大自然」(スリランカ)の3本を紹介しました。



## (8) 展示

### ア. ESD の 25 優良事例

11 月 10 日(月)～12 日(水) 名古屋国際会議場(アトリウム)

#### (ア) アフリカ

##### ① 信仰を基本とした ESD プロジェクト(ケニア)

宗教上の英知を小学校のカリキュラムに導入することによって、信仰を基本とした ESD を推進しています。信仰を基本とした価値に基づくシステムと前向きな姿勢を推進すること、教員、児童、地域住民に環境問題への関心や感覚を呼び起こし、持続可能な開発へのチャレンジを識別し解決する教員や児童の能力を高めることを進めています。



##### ② 持続可能な未来への学習と生活(ナミビア)

NaDEET(Namib Desert Environmental Education Trust)センターでは、子供から大人まで持続可能な生活、生物多様性、人類と環境のバランスについて実践的な方法で学んでいます。環境教育プログラムの中核には、環境教育センターがあり、既に 10,000 人以上を受け入れています。環境リテラシーや貧困者救済プログラムも行われており、その活動は国内で広まっています。



##### ③ ダカールの環境教育と市営菜園(セネガル)

このプロジェクトは、保育のやり方や小規模のガーデニングについてのトレーニングを失業中のユースや女性に提供しているものです。また町を緑豊かにするために植物を育てるという目的もあります。プロジェクトを利用して、学校の児童のために教育的意味合いをもった訪問や活動が企画されています。

##### ④ SADC-REEP 研修コース: 南アフリカ(南アフリカ)

南アフリカ開発コミュニティ(SADC)のモデルは、学習者の体験を学ぶ形で、地域環境学習プログラムを行っています。プログラムのコースは実践を前面に出しており、参加者はコースの受講中と終了後に持続可能性の視点からのプロジェクト改善に取り組んでいます。

##### ⑤ スワジランド大学: 大学全体でのアプローチ(スワジランド)

このプロジェクトは、アフリカの大学での環境と持続可能性の主流化を受け、スワジランド大学が ESD をどのように実施したかを紹介しました。大学の全てのメンバーのためにシリーズとして実施しているトレーニングワークショップなどのイニシアティブを紹介しました。これは学内での関心を高め、大学のプログラムや様々なプロセスの中に環境問題や持続可能性の問題を主流化させるための基本的な知識をもつことを目的としたものです。

#### (イ) アラブ諸国

##### ⑥ ラニア王妃教育アカデミー: ESD 研修ネットワーク(ヨルダン)

ESD に関する教員の能力強化、ESD をより良く理解すること、ESD を念頭に置いた授業実践への転換を促すための教員研修を実施しています。このイニシアティブは、ヨルダンやア

ラブ地域における教員が教育プログラムの質を高めていくことを目的としています。調査によれば、教員への影響は非常に高かったと評価されています。



⑦ ESD 教育的及び訓練活動(レバノン)

ESDと環境、経済、社会の関係性を学習するための教員・生徒向けの教育パッケージ及び学習活動を紹介します。同活動は、環境保全の重要性を理解し、主体的に教育実践に取り組むことができる自立した市民の育成を目指しています。



⑧ モロッコにおける環境と持続可能な開発(モロッコ)

このプログラムは、学生、親、地域社会に対して持続可能な開発のコンセプトを広げていくことを目指しています。また、教員や教育者の能力開発や環境クラブのネットワークを創りだしていくことも目的としています。

⑨ 環境教育用巡回バス「エンバイロ・モビール」(チュニジア)

この巡回バスは、チュニジアの多くの学校において、ESDや環境教育への関心を高める一助となっています。現在500の学校が参加しており、非常に大きな教育ツールとなっています。地元のNGOとパートナーシップを構築して実施しています。

⑩ アラブ首長国連邦のエコスクールとオンライン環境教育リソース「Be'ati Watani」(アラブ首長国連邦)

エコスクールプログラムは、授業での学習及び学校と地域社会での活動を通して持続可能な開発についての学生の関心を高めることを目指しています。2か国語でオンラインにて運営されている環境学習リソースの「Be'ati Watani」の紹介も行いました。

(ウ) アジア・太平洋

⑪ ESD 実験学校(中国)

省エネルギー、排出削減、持続可能な開発の問題について更に学ぶことに焦点をあてた実験校として設立が促進されています。100,000以上の小中学校がESDのテーマに沿ったトレーニングを受けています。60の小中学校の教員が持続可能な教育の専門家として賞を受けています。300の学校が教えと学びのデモンストレーション施設として設立されています。



⑫ ハンドプリント-持続可能性にむけたアクション(インド)

インド国立機関の環境教育センター(CEE)は、教育の分野で、環境と持続可能な開発への意識向上のためのプログラム開発や教材開発を行っています。環境教育を通じて、自然、社会文化、経済により良い影響を与えて、持続可能な生活を推進することを目指しています。ハンドプリントは、持続可能性に向けたアクションを推進する取組のシンボルです。

⑬ グリーン・スクール行動計画(インドネシア)

この計画は、気候変動教育に関わる教員の教育の知識やスキルを強化するものです。国、地域、ローカルのレベルのそれぞれに影響を与えられるよう、いくつかの付加的な要素も含んでいます。バンジャルマシン教育局は地域のカリキュラムに気候変動教育とグリーンスクールの要素を組み込む改革に合意しています。教員研修センターを設立し、気候変動教育とESDの能力強化を図っています。



⑭ 日本でESDを推進するASPネット(日本)

ESDの推進拠点としてのユネスコスクールの取組を紹介しました。日本では日本ユネスコ国内委員会に報告されたユネスコスクールガイドラインの趣旨を踏まえて活動を行っています。ユネスコスクールの数はここ数年で非常に伸びており、それらの学校の活動では、地球規模の問題に対する国連システムの理解、人権、民主主義の理解と促進、異文化理解、環境教育といったテーマについて質の高い教育が実践されています。

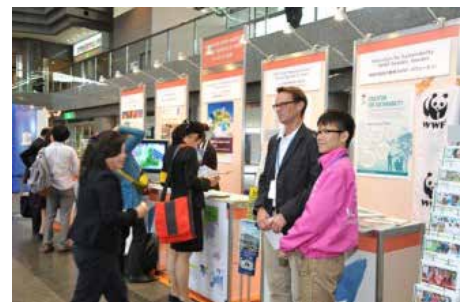
⑮ 教育者への気候変動教育(キリバス)

このプロジェクトは教育リソースである「Learning about climate change the Pacific way」を利用して教育システムの能力強化を目指しています。また気候変動教育について教員の職業的な能力強化も目指しています。

(エ) ヨーロッパ・北米

⑯ グリーンパック(中欧・東欧)

中東欧地域環境センター(REC)は、環境問題の取組を支援する目標を持った国際機関です。グリーンパックは、環境保護や持続可能な開発について11-14才の生徒を教える際のマルチメディア環境教育のキットです。例えばセルビアのグリーンパック教員ハンドブックには、環境問題の22のトピックに関する授業計画が収められています。現在ヨーロッパとアジアの18の国で導入されています。



⑰ ESDドイツにおける取組(ドイツ)

国内のESDのステークホルダーのネットワークを形成するために、ESD実施のための国レベルのコーディネーション・ユニットが、国連ESDの10年開始時に設立されました。政府、学界、民間部門、市民社会、教員、生徒のすべてのステークホルダーのグループの代表が集まる場が用意されています。コーディネーション・ユニットが行うESDに関する成果及び戦略的文書の発行、ESD賞の計画などを紹介しました。



⑱ グリーン・リンク - ESDのための情報通信基盤- (オランダ)

グリーン・リンクは、既存のウェブサイトを検索画面として組み込むことができ、ESDに関する製品、ウェブサイト、サービスなどを簡単に見つけることができます。つまり、この情報プラ

ットフォームを通して、すべての ESD に関する情報により効果的にアクセスできます。また異なる組織が提供する情報をテーマ毎に分けられており、エンドユーザーである教員、生徒、親、育児介助者などがより簡単に必要な情報を選び、成果物に利用していくことができます。また、フォーマル及びノンフォーマルに行われる ESD の教材の改良も目的としています。

⑱ バスク自治州における ESD:学校アジェンダ 21(スペイン)

このアジェンダは、学校とその地域コミュニティの参加を基に、生物多様性、気候変動、水資源、エネルギー、消費、移動手段といった環境問題との関係性を作り上げてきました。義務教育における能力や責任ある市民意識を育てていくための良い手段として見なされています。持続可能性との関わり合いを持つことの必要性について関心を高めるとともに、環境問題に関して学校とその地域コミュニティと地方自治体が構築する活動を互いに密接にする機会を与えています。

⑳ 持続可能性の教育-WWF(スウェーデン)

スウェーデンの世界自然保護基金(WWF)は、東アフリカ、カメルーン、マダガスカル、インド、インドネシアにおけるモデル地域において、教育セクターや地域社会にて ESD に焦点を当てた教育の再方向付けを刺激することを狙った活動を行っています。スウェーデン、アフリカ、アジアにある世界自然保護基金の地域事務所と協力して取り組んでおり、対象を政策から現場までのすべてを網羅し、ESD に向かって全体的なアプローチを取るモデル校に関する活動です。

(オ) 中南米・カリブ諸国

㉑ 持続可能性の教育・教育者の大会(ブラジル)

政府や多様な地域の団体が集まって実施されるプログラムであり、環境教育の教え方に関する計画策定や地方への支援を実施しています。環境教育に係る多様な地方公共団体からの報告は、政策策定のサポートとなっています。

㉒ ナショナルユース環境ネットワーク (コロンビア)

ユースとすべてのステークホルダーが、持続可能な開発プロセスに対する情報、参加、管理を通して、お互いのコミュニケーションや交流事業を發展させています。



㉓ 地球憲章(コスタリカ)

地球憲章は、ユネスコにおいても持続可能な開発のための重要な倫理的枠組みとして認識されており、世界中の多くの教育者が、学校教育へ持続可能性の倫理を持ち込む一つの方法として地球憲章を用いています。



㉔ カリブ海の砂の観察プロジェクト(ドミニカ共和国)

砂の観察プロジェクトは、学校の生徒や地域コミュニティのための教育的な枠組みであり、直面する海岸の環境の問題を科学的に監視し批判的に評価し、持続可能な管理の解決策を見つける取組を行っています。このプログラムは国際的なものであり、成人、ユース、生徒、様々な生活分野に関わる人々が参加して、多くの成功をもたらしています。このプログラムは非常に興味深いもので、



新しい優先課題に順応するために、どのように環境教育プログラムが新たに形作られ、推進されたかという点で良い例と言えます。

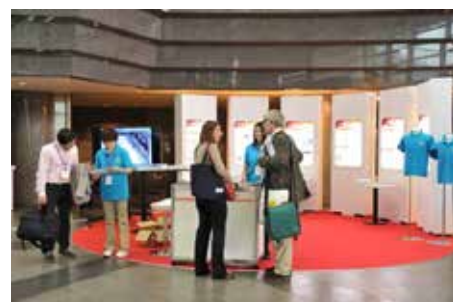
#### ㊥ ウィスカルカン環境保護区(メキシコ)

この環境保護区では環境のための行動を推進し責任ある市民意識を後押ししています。環境への影響を減らし、責任ある市民意識に貢献するため、コミュニティの関与によって、小学校における環境教育活動を推進しています。生徒、教員、管理者、親といった多様な人々の対話、教育、公共的な関心の高まり、研修活動によって、更に持続可能な地域社会となるためのビジョンづくりを進めています。

### イ. 日本政府ブース

#### 11月10日(月)～12日(水) 名古屋国際会議場 (アトリウム)

ESDの推進拠点であるユネスコスクールの取組事例、政府の取組や企業との連携、学校や地方公共団体における優良事例、政府等による活発な広報活動、岡山市で開催されたステークホルダーの主たる会合の概要など日本におけるESDの特徴と成果及び、オリンピック年を意識した「TOKYO2020がめざすもの」についてパネルで掲示しました。また「わが国における『国連ESDの10年』実施計画」(平成18年連絡会議決定、平成23年改訂)に基づく取組・成果及び国内の優良事例を取りまとめた「ジャパンレポート」も積極的に配布しました。ブース内に配置したTV画面では日本のESDオフィシャルサポーターで歌手の白井貴子氏によるESDメッセージソング「僕らは大きな世界の一粒の命」のDVDを放映するなど、ESDオフィシャルサポーターの取組を紹介しました。またESD周知のために作成したESDポロシャツも展示しました。



### ウ. ユネスコブース

#### 11月10日(月)～12日(水) 名古屋国際会議場 (アトリウム)

ユネスコがこれまで発行してきたESDに関する書籍やパンフレットを紹介するとともに、世界会議に合わせて発行された「国連ESDの10年のレポート」及び「グローバル・アクション・プログラム(GAP)ロードマップ」を参加者に配布しました。気候変動、生物多様性、防災などESDに関するキーワードを日英仏西の4ヶ国語に翻訳したパネルを背にしたラウンジスペースでは、ブース訪問者とESDについて議論を行うとともに、ユネスコのESDへの取組に関する質問に対応しました。



### エ. 加盟国、国連機関

#### 11月10日(月)～12日(水) 名古屋国際会議場 (イベントホール)

##### (ア) 学校の安全性についてのアジア共同体(ACSS)

ACSSのメンバーによって作成された学校の安全性に関する出版物や情報教育コミュニケーション教材の紹介を行いました。



(イ) アジア欧州財団

アジアと欧州の関係強化に資する発達しつつあるネットワークに関する共有の学習体験などを、出版物やリーフレットを活用して紹介しました。



(ウ) 環境教育センター(CEE)(インド)

環境教育やESDの分野における最先端の取組を紹介しました。展示物を見ていただくことにより、教育は、変化をもたらす推進部分であることを明確に訴えかけました。



(エ) 中国国家ESD委員会(中国)

中国における直近15年で成し遂げたESDの発展の成果に関わるDVDやパンフレットを掲示・配布しました。中国におけるESDの発展をわかりやすくまとめた冊子も紹介されました。ESDの実施で得た経験を通して作り上げたロードマップ、発展の各段階、関連コンセプトをパネルにまとめて紹介しました。



(オ) アブダビ環境庁(アブダビ)

持続可能な学校イニシアティブ(Sustainable Schools Initiative)を紹介しました。学校の共同体に関する現実的な環境メッセージの大きな影響に対する関心を高めるための取組の核をなすものです。このイニシアティブは、グリーンスクール監査、環境クラブの設置と運営、研修の指導者、現地視察の四つの分野で成り立っています。



(カ) ウィスカルカン環境保護区(メキシコ)

保護区は、ウィスカルカンの自然資源を保護し持続可能とする目的で、政策の一つとして設定されました。地域コミュニティと政府との対話の中で生まれたプロジェクトであり、実施に当たっても双方が協力し合っています。教育、市民意識、研修活動を通じた持続可能な共同社会というビジョンを推進している事例です。



(キ) インド

フォーラム教育分野におけるインド政府の主要なイニシアティブや、持続可能な開発分野の中核的な部分において教育に対して認識が高まっている様子が分かるパネルの掲示、パンフレット・冊子の配布をしました。例えばインドにおける全国初等教育完全普及計画、教育を受ける権利、気候変動・生物多様性・防災・減災に関するインドの取組を紹介しました。



(ク) インドネシア共和国

インドネシアにおけるESDに関する経験と教訓を紹介しました。また、現在進行中のプログラムとその未来の方向性やESDに関連する政策についても広報しました。展示物として、ESDの11のテーマと関連するものを用意し、それぞれのテーマによって、インドネシアの教育政策を始めとするESDに関する成果と教訓をわかりやすく理解できるよう工夫しました。



(ケ) 独立行政法人 国際協力機構(JICA)(日本)

JICAのESD関連分野として、教育、水衛生、防災、気候変動、生物多様性、環境管理のJICAの取組を紹介しました。特に環境分野では、2011年7月に開始されたマレーシアにおけるアジア地域のための低炭素社会シナリオの発展の開発にかかるプロジェクトの詳細な紹介が行われました。本プロジェクトは、京都大学、国立環境研究所、岡山大学、マレーシア技術大学から学際的な研究者が集まって実施されているもので、低炭素社会ビジョンを規定し、国家レベルや地域レベルで低炭素社会に向けたロードマップを作り上げようという試みです。これは意欲的なコミットメントであり、2005年を基準にして2020年までに40%炭素濃度を削減するというものです



(コ) マラウイ共和国

未来のための革新的な学習方法を創りだしていくため、政府、公的及び民間セクターが、資源、ネットワーク、知識を一緒に持ち寄り、分野横断的な努力により作成されたマラウイ民話プロジェクトの出版物を展示しました。

幼児の発達やESDを推進する目的で作成されたこの出版物は、人類による環境への介入並びにその影響や教訓を記した民話を紹介しています。



(カ) 中東欧地域環境センター(REC)

持続可能な開発の原則を政府やビジネスレベルの実践に取り入れていくためのESDへの主要な取組を紹介しました。センターでは、並行して、市民レベルで態度や行動を変えていく取組も行っています。学際的な協力を育み、マルチステークホルダーによる取組の推進に努めています。これにより今後中東欧におけるESDの再形成が進むことが期待され



ます。

(シ) サロンフィルムズ

ユネスコとサロンフィルムズが連携して世界中から公募したESDをテーマにしたショート・フィルムコンテストの優秀作品の放映が行われました。このコンテストは、ESDへの取組の経験を皆で共有し、ESDへの様々な関与や分野を紹介し社会を変える力としての重要性をアピールする目的で実施されました。



(ス) サウジアラビア王国

サウジアラビア国内で行われた様々なESDへの取組、試み、チャレンジなどが出版物、印刷物などで紹介されました。



(セ) サステイナビリティ・ヴィクトリア(オーストラリア)

地域社会で行われたプロジェクトやフォーマル教育のプログラムでの成功事例を展示しました。学校や幼児教育プロジェクトのケーススタディ、Resource Smart onlineを見ながら相互に交流できるサイトの紹介、廃棄物教育に関する出版物など組織の活動の成果として紹介されました。

(ソ) 国連気候変動に関する教育・訓練・国民意識のための同盟

気候変動教育や市民意識について本同盟やその13のメンバーが取り組んできた事業を紹介しました。



(タ) 国際連合地域開発センター(UNCRD)

リデュース、リユース、リサイクルの3Rの実践例などを記した冊子や環境的に持続可能な交通(EST)、災害管理計画の報告書を展示しました。

(チ) 国連環境計画 持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組み事務局(UNEP-10YFP)

持続可能な消費と生産に関する10年計画枠組みのもと実施された取組に焦点を当てつつ、この枠組みへのユースの関心を集めることを目指しました。能力強化、意識向上、調査、政策立案を含むアプローチや、国家レベルで実験的に試みられているアプローチについて重点的に紹介しました。

(ツ) ユネスコ・マハトマ・ガンディ平和と持続可能な開発のための教育研究所(UNESCO MGIEP)

包括的な豊かさの指標の関連情報を提供しました。この指標は進歩、幸福、長期的な持続可能性に関しての各国の豊かさを計測し、大きな絵として表すことができます。これは長期的な経済成長や人類の幸福について、私たちに重要な示唆を与えてくれます。



(テ) 国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)

国連大学が展開するESDに関する地域拠点(RCE)、アジア環境大学院ネットワーク(ProSPER.Net)、アフリカESDプロジェクト(ESD in Africa)に関連する資料・出版物を展示・紹介しました。



(ト) 国連世界食糧計画(WFP)

今日の世界における飢餓や貧困の状況に焦点を当てて学校の給食システムを紹介しました。国連世界食糧計画は50年以上にわたり学校のプログラムに携わってきており、世界中で最大の学校給食の供給者です。

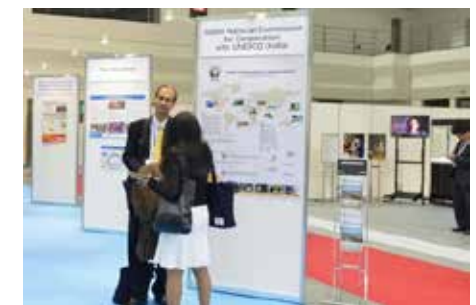


## オ. ポスター

11月10日(月)~12日(水) 名古屋国際会議場 (イベントホール)

ユネスコにより実施された公募の結果、国連機関等から12のポスターが展示されました。

- éducation21 (スイス)
- 認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)
- School infrastructure Department, 教育省 (チリ)
- プラン・インターナショナル
- U.S. Partnership for Education for Sustainable Development (USPESD)
- Indian National Commission for Cooperation with UNESCO (インド)
- KEDGE ビジネススクール
- 中東欧地域環境センター(REC)
- ヘリオポリス大学(エジプト)



- ・ 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)
- ・ ユネスコ・マハトマ・ガンディ平和と持続可能な開発のための教育研究所(UNESCO MGIEP)
- ・ サムスン電子株式会社 (韓国)



## カ. 「触れる地球」の展示

11月10日(月)～12日(水) 名古屋国際会議場 (イベントホール)

「触れる地球」は、世界初のインタラクティブ・デジタル地球儀であり、ここに映し出されるリアルタイムの雲画像、生態の知られていなかった渡り鳥の渡りの追尾情報、温暖化のシミュレーションなどを自分の手で地球儀を廻しながら学ぶことができます。2基の地球儀と説明用スクリーンを利用して、会議参加者にこの地球儀を体感してもらいました。



ブースの様子



説明の様子



## キ. ジャパンアートマイルの展示

11月10日(月)～12日(水) 名古屋国際会議場 (1号館と2号館の連絡廊下)

海外の同世代と協働学習を通してお互いを知り、地球規模のテーマで学習し問題意識を高めることを目的として、日本の学校と各国(オーストラリア・ザンビア・タイ・メキシコ・アメリカ・ウガンダ・インドネシア・パキスタン・フィジー・フランス)の学校が共同で作成した壁画の展示を行いました。



展示の様子



説明パネル

## ク. エコ絵日記コンテストの展示

11月10日(月)～12日(水) 名古屋国際会議場 (1号館 休憩コーナー)

パナソニック株式会社は、身近なところで実際に行った地球環境を守る・救うことにつながる活動を絵日記にまとめる「エコ絵日記」プログラムを世界で実施しています。今年度はグローバルコンテストの中で、本世界会議の開催を記念し、「ESDに関するユネスコ世界会議特別賞」を設けました。世界35カ国15万人から選抜し、同賞をはじめ、最優秀賞など受賞6作品を会場内に展示しました。



展示の様子



ESDに関するユネスコ世界会議特別賞

## (9) 併催イベント

### ア. セミナー

11月10日(月)名古屋国際会議場 (1号館3階 各会議室)

- ① 和歌山の世界遺産が果たす平和文化創造とESDの活用について【世界遺産や地域の文化財等に関する教育】

主催者:和歌山ユネスコ協会

概要:

2015年6月6日～8日に和歌山市で開催予定の「第71回日本ユネスコ運動全国大会 in 和歌山」のプレイベントとして50名余りの参加者ととも開催されました。パネルディスカッションでは、「世界遺産を活用したESD」、「世界遺産の保全のための課題」、「今後の展望」等について意見交換を行いました。

〈協力:和歌山県世界遺産マスター、日本マチュピチュ協会〉



- ② ふくお環<sup>かん</sup>ゼミ in なごや ～福岡の大学生を育てる産官学民連携～ 【その他関連する学習】

主催者:西南学院大学・福岡超大学環境ゼミナール

概要:

西南学院大学経済学部3年生の5名が司会等運営を担い学生主体のセミナーが開催されました。開催責任者の挨拶と報告、経済学部4年生の報告、社会人によるコメントと提言、そして質疑応答が行われました。

〈協力:(公社)福岡県産業廃棄物協会、福岡市環境局環境政策部政策経営課〉



- ③ アートマイル国際協働学習で持続可能な未来を拓く次世代を育てる

主催者:ジャパンアートマイル実行委員会 【国際理解学習】

概要:

有識者を交えて日本の教育を考える立場、教員養成の立場、現場の立場、学校支援の立場から未来の教育について情報交換が行われました。

〈協力:鈴木寛文部科学省参与、兵庫教育大学、東北学院大学、多摩市南鶴牧小学校〉



④ Beyond GDP ～包括的豊かさ指標 (IWI)とは?～【その他の関連する学習】

主催者:環境省地球環境局国際連携課

概要:

人間の豊かさの定量的評価を GDP 以外の指標によって行う取組が広がっている。IWI とは、物的資本に自然資本・人的資本も含めたストックであり、新しい国富として測るようになった。資本は人の評価によって価値が決まり、一方で、人の評価は時期・時間によって変わります。IWI が政策とリンクすることで、より良い政策決定プロセスへとつなげることができることを紹介しました。〈協力:東北大学大学院〉



⑤ ESD の地域連携 ―ポスト「ESD の 10 年」の ESD に関する地域拠点 (RCE) の取組― 【その他関連する学習】

主催者:RCE 日本国内連携 (幹事機関:中部 ESD 拠点協議会〈RCE 中部〉)

概要:

多様な主体による地域での ESD に関するネットワーク活動が、世界各地で進めている ESD に関する地域拠点 (国連大学認定 RCE) の関係者と共に行われました。RCE は現在、世界 129 地域にあり、岡山市で「持続可能な開発のための教育に関する拠点 (RCE) の会議 (第 9 回グローバル RCE 会議)」が開催された成果を踏まえて、地域内外でいかにネットワークを発展させるべきかについて議論が行われました。

日本国内 6RCE を代表して RCE 仙台広域圏、5 大陸別会議から各代表が登場し、グローバルな地域間連携について話し合いました。



11 月 11 日 (火) 名古屋国際会議場 (1 号館 3 階 各会議室)

⑥ 中東欧地域で活用されているマルチメディア環境教育教材グリーンパックの紹介【環境学習】

主催者:地域環境センター (国際機関)

概要:

中東欧地域環境センター (REC) とはハンガリーに本部を置く国際機関であり、中東欧地域 17 か国の環境保全に向けて多数のプログラムを実施しています。その活動として「トヨタ環境活動助成プログラム」の助成を受け、11 歳から 15 歳までの児童生徒を対象として作成した環境保護と持続可能な開発に関するマルチメディア環境教育教材、グリーンパックを紹介しました。





⑦ 私たち、地球一周してきました！～ピースボートのESD実践例～ 【国際理解学習】

主催者：ピースボート地球大学

概要：

国際交流の船旅をコーディネートするNGOであり、国際機関、地域活動などで活躍する「平和の創り手」を担う人材育成プログラムの発表がありました。その内容は、受講生たちが今年7月から各国で体験した植林や生活用水のための浄水フィルター作りなどを紹介しました。

〈協力：ピースボート地球大学受講生 宮原、樋田、鏑木〉



⑧ 日中合作「長江流域こども環境サミット」に向けて－上海崇明自然がっこう(日中アグリ青年交流会)成果報告会－ 【生物多様性】

主催者：一般社団法人 ときの羽根

概要：

上海崇明島「自然がっこう」プロジェクト及び「日中アグリ青年交流会」の成果報告と長江流域「子ども環境サミット2015」計画の発表が行われました。環境保全教育の現状や循環型農業の現状と課題など、日中それぞれの現状報告を行い、課題解決に向けて認識を共有しました。

〈協力：金沢大学大学院、同済大学(上海市)、地域の未来・志援センター 等〉



⑨ ESDにおける地球憲章の役割、成果及び課題 【国際理解学習】

主催者：NPO 法人 地球憲章アジア太平洋・日本委員会

概要：

160名の参加者が集まり、地球憲章の生態系・生命系への配慮、社会的・経済的公平性、民主主義、平和・非暴力といった持続可能な未来のための価値・原則という「レンズ」から物事を見ると、何が持続可能ではないかが浮かび上がってくるといった内容を取り上げ議論しました。

〈協力：地球憲章インターナショナル、葉欣誠台湾環境省副大臣 等〉



⑩ 〈シンポジウム〉みんなで学ぶ、食と農のおもてなし・もったいない・里山のころ【国際理解学習】

主催者：株式会社 伊藤園

概要：

取組の紹介、人と自然、異文化交流、和食文化、世界遺産等の有識者を交えて、パネルディスカッションが行われました。

〈協力：松浦晃一郎 前ユネスコ事務局長、静岡文化芸術大学、桜美林大学 等〉



⑪ 『ものづくり』人材の持続的育成をめざして！ 【その他関連する学習】

主催者：学校法人 中部大学

概要:

初等・中等教育の立場からは、創造性を育むには、技術に関わる授業が大事であること、高等教育からは日本の技術力を継続し、発展させるために工学に関わる教育と研究の充実が必要であることなど、様々な立場の有識者の講演を行いました。ESD 活動はそれぞれの立場において重要な役割を果たすことが共通の視点となりました。  
〈協力: 日本産業技術教育学会、コロラド州立大学、持続可能なモノづくり・人づくり支援協会〉



⑫ 世界 52 カ国で取り組まれるエコスクール 海外・国内での事例とその成果 【環境学習】

主催者: NPO 法人 FEE JAPAN

概要:

厚木市では、地球温暖化対策実行計画でエコスクールを推進し、環境に関心を持つ児童を増やしていくことを政策の一つと位置付けているため、市内相川小学校と緑ヶ丘小学校のプログラムによって、どのように子どもたちが変化したかなどの情報共有が図られました。

〈協力: FEE インターナショナル、厚木市役所環境政策課、NPO法人 環境市民〉



11月12日(水) 名古屋国際会議場(1号館3階 各会議室)

⑬ 持続可能な未来づくりに向けた高度な人材育成のあり方 【その他関連する学習】

主催者: 日本環境共生学会

概要:

21世紀におけるサイエンス、ポリシー、ビジネスなどの分野のグローバルリーダーには、持続可能な地球社会を創り出す能力が備わっていることが不可欠と講演されました。また、日本の高等教育(大学・短大・高専)でESDに取り組んでいるのは、わずか約3割であることが報告されました。

〈協力: 奈良教育大学、北九州市立大学、大阪府立大学〉



⑭ 地域のステークホルダーをESDでつなげよう 【その他関連する学習】

主催者: 国連大学、地球環境パートナーシッププラザ

概要:

NGO や自治体職員、教育関係者など約70名の参加があり、地域のステークホルダーが様々な形で「つながり」を育んできた実践例が紹介されました。その中でグローバル・アクション・プログラム(GAP)導入後の地域のステークホルダーの連携の課題や展望として、社会教育施設と学校をつなぐコーディネーターの活用や企業セクターの参画等、ESDを地域に根付かせて行くことを再確認しました。

〈協力: 宮城教育大学、聖心女子大学、仙台市八木山動物公園 等〉



⑮ 東レの取組事例とスクールウェアでの ESD 活動提案 【気候変動】

主催者：菅公学生服株式会社、東レ株式会社

概要：

出張事例として主催者 2 企業の CSR 活動事例の紹介とともに、自治体・NPO/NGO 及び大学有識者が、新たな ESD 活動の 10 年間に向けて、企業が取り組むべき ESD 支援活動等の話し合いが行われました。



⑯ ESD の 10 年の成果と今後—学術 3 学会の総括と未来—【その他関連する学習】

主催者：日本環境教育学会・日本国際理解教育学会・日本社会教育学会

概要：

参加者は 100 名以上あり、ESD の 10 年をどう捉えてきたのか 3 学会のパネリストが報告を行いました。環境・社会・文化などとのつながりの中で持続可能な社会の構築を目指すことを広義の環境教育と捉えて、自然環境を保全することがベースになるとしました。文化、社会地球的課題の理解と、次世代への継承が大切であることが確認されました。



⑰ 森林環境教育の充実と ESD の推進 【環境学習】

主催者：林野庁

概要：

有識者の講演では、参加者が自然を好きになること、地域に関心を持ち、森づくり、地域づくりを行う活動組織の立ち上げやその取組について報告がありました。また、それぞれの取組がさらなる浸透を促すため、今後の課題や方針等について紹介しました。

〈協力：埼玉大学、日本大学、NPO 法人共存の森ネットワーク、森林総合研究所〉



⑱ マイノリティの視点に立った ESD ～地域の事例と今後のための提案 【国際理解学習】

主催者：NPO 法人 開発教育協会

概要：

約 60 名が参加して、アイヌ民族の権利回復と地域の共生を生み出す ESD の事例及び、公害後の地域再生のプロセスで ESD に取り組むことで公害被害者と企業や行政の関係性を紡ぎ直した事例などが紹介されました。

〈協力：公害地域再生センター(あおぞら財団)、さっぽろ自由学校 等〉



⑲ ESD in 三重 2014 【環境学習】

主催者：国立大学法人 三重大学

概要：

ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会パートナーシップ事業としてESDプログラムや成果報告等を行いました。また、三重県の環境に関する過去・現在・未来について参加者と情報を共有し、より良い社会、そして持続可能な社会の実現のために考える機会としました。

〈協力:学校法人 梅村学園三重中学校・高等学校〉



⑳ 共に掲げよう！地域・市民社会・企業からのESD推進宣言・提言【その他関連する学習】

主催者:認定NPO法人 持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)

概要:

全国各地の教育関係者、NPO、自治体、研究者、ユース、企業ら80名が、「ESD推進の仕組みづくり」、「企業でESDを推進」、「ユースの参画」、「地域全体でESDを推進」をグループに分かれて意見交換を行いました。

〈協力:茨城NPOセンター・コモンズ、北九州ESD協議会、名古屋若者会議、(公財)損保ジャパン環境財団等〉



㉑ ESDファシリテーターに関心のある人集まれ！～国際協力NGOのニーズを知って活動の場を広げよう～【国際理解学習】

主催者: NPO法人 名古屋NGOセンター

概要:

8月より全国280団体を対象にしたアンケートや、ヒヤリング調査の経過を報告し、教職員、NGO関係者、行政関係者、大学生など28名の参加者とワークショップを行いました。

〈協力:アジア保険研修所、中部環境パートナーシップオフィス、(公財)防災科学研究所・国際理解教育センター〉



イ. 展示

11月10日(月)～12日(水)名古屋国際会議場(1号館3階 ロビー)

(ア) 国際理解学習

- ① 株式会社伊藤園
- ② アジア保健研修所(AHI)
- ③ 公益財団法人オイスカ(OISCA)
- ④ NPO法人 開発教育協会/ DEAR
- ⑤ ジャパンアートマイル実行委員会
- ⑥ NPO法人 地球憲章アジア太平洋・日本委員会



国際理解学習

(イ) 環境学習

- ⑦ NPO法人 AKJ環境総合研究所/あいち環境研究会
- ⑧ NPO法人 共存の森ネットワーク
- ⑨ 愛知創価学会
- ⑩ 「なごや環境大学」実行委員会
- ⑪ NPO法人 日本ビオトープ協会
- ⑫ なごや環境サポーターネットワーク



環境学習

- ⑬ 国立大学法人 三重大学
- ⑭ 一般財団法人理数教育研究所、愛知教育大学

(ウ) その他関連する学習

- ⑮ 岡山市/RCE 岡山
- ⑯ 北九州 ESD 協議会
- ⑰ 認定 NPO 法人 持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議(ESD-J)
- ⑱ 中部 ESD 拠点 (RCE 中部)
- ⑳ 環境省中部環境パートナーシップオフィス
- ㉑ みらい育ティーチャーズ
- ㉒ NPO 法人 MERRY PROJECT



その他関連する学習

(エ) 生物多様性

- ⑳ 新日鐵住金株式会社
- ㉑ 電機・電子 4 団体 生物多様性ワーキンググループ
- ㉒ ラムサールセンター



生物多様性

(オ) 防災学習

- ㉓ 一般社団法人 日本損害保険協会

(カ) エネルギー

- ㉔ 愛知県立熱田高等学校

(キ) 気候変動

- ㉕ 東レ株式会社



防災学習、エネルギー、気候変動

**(10) 記者会見**

※報道発表資料の詳細は「第二部 参考資料 37～40」参照

11月10日(月) 16時～16時30分 名古屋国際会議場(2号館1階 記者会見場)

会見者: イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長、下村博文 文部科学大臣

概要:

ボコバ ユネスコ事務局長が世界会議の意義を述べるとともに、グリーンな社会構築に向けた教育の役割の重要性や政府、民間、市民社会、学术界の連携、国連ESDの10年に続くグローバル・アクション・プログラム(GAP)への協力体制を呼びかけました。下村文部科学大臣からは、ESDを更に推進していく方策の一つとして、全世界の中でESDに関する優れた取組を表彰する「ユネスコ/日本ESD賞」の創設が決定されたことを本日の会議で発表した、との発言がありました。

メディアからは、達成度合を図る指標、日本でのESD推進の課題、メディアの果たすことができる役割について質問がありました。



## 11月11日(火) 10時30分～11時 名古屋国際会議場(2号館1階 記者会見場)

会見者: 高校生フォーラムに参加した Ms. Nadia Eliza Ramos (ブラジル)、竹井まどか氏(日本)、ユネスコ ESD ユース・コンファレンスに参加したサイブレン・ボッシュ氏(オランダ)、モナ・ベートル・エル・ソキビ氏(レバノン)、オルワフンミラヨ・オヤトゲン氏(ナイジェリア)

概要:

最初に、高校生2名及びユース3名から、自己紹介と Student(高校生)フォーラム及びユネスコ ESD ユース・コンファレンスに出席することになった動機が述べられました。次にユネスコ ESD ユース・コンファレンス参加者から、52名※の多様なユースが会議前1週間から交流したうえで会議が11月7日に行われたこと、明日のリーダーであるユースの意見が反映されることを希望するとの発言がありました。11月5～7日に開催された Student(高校生)フォーラムの参加者から、つながりの重要性や関係者への感謝が述べられました。メディアからは、ESD が既存の教育と何が違うのか、それを他者にどう伝えたいのか、日常で ESD を実践する際の具体的な例を示して欲しいなどの質問がありました。

※52名のうち2名は、11月7日のユネスコ ESD ユース・コンファレンスを欠席



## 11月12日(水) 17時30分～18時15分 名古屋国際会議場(2号館1階 記者会見場)

会見者: チェン・タン ユネスコ教育担当事務局長補、丹羽秀樹 文部科学副大臣

概要:

丹羽文部科学副大臣が、あいち・なごや宣言の重要性を述べるとともに、日本としてユネスコ/日本 ESD 賞の実施等を通じて国内外で ESD を一層推進していくとの発言がありました。タン ユネスコ教育担当事務局長補は、日本政府始め関係者に感謝を述べるとともに、世界各国から寄せられたコミットメントを通じてグローバル・アクション・プログラム(GAP)を推進する重要性を訴えました。メディアからは、ESD 推進に係る資金調達、ユネスコ/日本 ESD 賞の対象となる活動、国連 ESD の10年の開始時と現在との変化などについて質問がありました。



## (11) 千玄室大宗匠(ユネスコ親善大使/裏千家第15代家元)による記念茶会

11月10日(月) 13時10分～13時45分 名古屋国際会議場(白鳥ホール)



記念茶会の様子



ボコバ ユネスコ事務局長(左)、千玄室大宗匠(右)

## (12) 日本政府主催 歓迎レセプション ※原文が外国語の場合、要約は文科省仮訳

11月9日(日) 19時～21時 ウェスティンナゴヤキャッスル(天守の間)

ア. 下村博文文部科学大臣 挨拶(要約)

明日から国連 ESD の10年を総括するユネスコ世界会議が始まります。昨日まで岡山市におい

て、RCE、高校生、ユース、そして日本のユネスコスクールの皆さんがそれぞれ熱心な宣言をまとめられたと聞いています。本日のレセプションでは、皆様に歓迎の意を表し、ユネスコ無形文化遺産にも登録された和食や、ここ名古屋の代表的な料理などを用意しております。また、日本の伝統的な楽器である尺八と和太鼓の演奏も準備しております。日本の文化に触れながら、お食事と会話をお楽しみください。



#### イ. イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長 挨拶(要約)

今回の世界会議は国連ESDの10年の最後を飾るものです。グリーンエコミーだけでなくグリーン社会を育て、グリーンな法だけでなくグリーンな市民を育むために、私たちは教育を通じて持続可能性に意欲的なアジェンダを確立しなければなりません。これは、来年70周年を迎えるユネスコ憲章の根本的なメッセージです。平和の維持と持続可能性は人々の心の中に築かれなければなりません。グローバル・シティズンシップを形成し、地球とより良い調和を図り、全ての人のためにこれまで以上に包括的、公正かつ持続可能な未来を作り上げていくにあたり、ESDは極めて重要な役割を果たします。



#### レセプションの様子



皇太子殿下 御臨席



松浦晃一郎前ユネスコ事務局長 乾杯



全体の様子



ボコバ ユネスコ事務局長 歓談



文化アトラクション



待合スペース(「神の宮」写真の展示)

#### ウ. 展示

レセプションの参加者へアピールするため、国内のESD取組事例を紹介しました。

(ア) 国際理解学習

- ① 株式会社伊藤園
- ② 公益財団法人 オイスカ
- ③ NPO 法人 開発教育協会/DEAR
- ④ ジャパンアートマイル実行委員会
- ⑤ NPO 法人 地球憲章アジア太平洋・日本委員会



国際理解学習

(イ) 環境学習

- ⑥ 認定 NPO 法人 共存の森ネットワーク
- ⑦ AKJ環境総合研究所/あいち環境研究所
- ⑧ NPO 法人 ごみじゃぱん
- ⑨ なごやエコピープルネット
- ⑩ 「なごや環境大学」実行委員会
- ⑪ NPO 法人 FEE JAPAN
- ⑫ 台湾環境教育学会



環境学習

(ウ) その他関連する学習

- ⑬ NPO 法人 メリープロジェクト
- ⑭ ToyamaResCo
- ⑮ 岡山市/RCE 岡山
- ⑯ NPO 法人 日本持続発展教育推進フォーラム
- ⑰ 北九州 ESD 協議会
- ⑱ 認定 NPO 法人 持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議(ESD-J)
- ⑲ 環境省中部環境パートナーシップオフィス



その他関連する学習

(エ) 生物多様性

- ⑳ 一般社団法人 ときの羽根

(オ) 防災学習

- ㉑ 一般社団法人 日本損害保険協会

(カ) 世界遺産

- ㉒ 和歌山ユネスコ協会



生物多様性、防災学習、世界遺産

(キ) その他



日本における ESD の取組紹介



和食の紹介



神の宮(写真家 増浦行仁氏)



### (13) ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会主催 歓迎レセプション

※原文が外国語の場合、要約は文科省仮訳

11月10日(月)19時~21時 名古屋国際会議場(アトリウム、イベントホール、中庭)

#### ア. 大村秀章 愛知県知事 挨拶(要約)

開会初日から熱心な議論が展開され、大変嬉しく思います。ここ、あいち・なごやの地から、世界に向けてESDのメッセージが発信されることを、大いに期待しております。

あいち・なごやは、名古屋城や国宝犬山城などが残る歴史と伝統の地であり、また陶磁器や織物などの伝統工芸、自動車産業や航空宇宙産業を始めとしたモノづくりの地でもあります。また全国一位の花き生産を始めとして、農林水産業の盛んな地域でもあります。会場内にある「あいち・なごやおもてなし交流エリア」では、地域のESDの取組などとともに、あいち・なごやの様々な魅力の紹介や、からくり人形の実演、琴の演奏のほか、「なごやめし」といわれる当地の料理などもお楽しみいただけます。



#### イ. 河村たかし 名古屋市長 挨拶(要約)

名古屋は日本のほぼ中央に位置しており、人口約228万人が生活する大都市です。昔から木曾ヒノキを始め良質な原材料が手に入りやすく、数多くの優秀な職人が集まってモノづくり文化が花開いた産業都市です。その一方で、エクスカッションのコースにもなっている名古屋城や徳川園を始めとした近世武家文化(サムライ文化)の香りが残っている街で、滞在期間中に少しでもこの街並みをお楽しみいただければと思います。



#### ウ. イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長 挨拶(要約)

ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会の思いやりのあるおもてなし、素晴らしい歓迎に感謝します。本日は、長く、興奮に満ちた、実り多き、意欲がかき立てられた一日でした。開会全体会合やハイレベル円卓会議の間、閣僚やハイレベルの代表者の方々から素晴らしい識見や経験をお聞きできました。成功した取組等を情報交換し、国連ESDの10年の間、地球規模で行われたESDへの努力から学んだ事例について議論しました。ESDの未来への道を確認するため、残り2日の会議期間が実り多いものとなることを期待します。



#### エ. 下村博文 文部科学大臣 挨拶(要約)

世界会議開催に当たり、開催地である愛知県・名古屋市から多大な協力をいただいております。会議開催に当たっては、文部科学省もあいち・なごや支援実行委員会の皆様と緊密な連携のもと、準備を進めてまいりました。この世界会議に関連するイベントとして、県内の子供たちがESDについて話し合う「子ども会議」が開催されたと聞いています。この国際会議場



外においても市内中心部での関連イベントの開催、テレビ塔のイルミネーション点灯、各所でのフラッグ掲出などにより、ESDの普及を行うとともに、この会議を盛り上げていただいております。皆さんの御尽力に感謝いたします。

## レセプションの様子



岡谷篤一名古屋商工会議所会頭 乾杯



鏡開き



全体の様子

### (14) 学生ボランティア

国際的人材の育成や若い世代へのESDの普及・促進を目的として、学生ボランティアを募集し、全国から選ばれた約200名の学生がユネスコ加盟国代表団等にアテンドしました。2014年5月の募集時には約600名の大学生・大学院生から応募があり、英語能力等について面接を実施したうえで採用を決定しました。学生たちは10月に研修を受講し、活動内容等を学びました。

会議期間中は、各国代表団及び全体会合のスピーカー等に付き添い、英語でコミュニケーションをとりながら世界会議参加登録の補助、会議場の案内等を行いました。国際会議は初めてという学生がほとんどでしたが、代表団のスケジュールの急な変更にも臨機応変に対応していました。また、学生は開会全体会合始め一部のプログラムを傍聴し、国際会議の雰囲気を感じることができました。



集合写真



エスコートする学生たちの様子(上、下)

#### ア. 活動内容

##### (ア) エスコート業務

- ・ 宿泊ホテルから世界会議の会場及び日本政府主催レセプション会場までのエスコート(送迎バス案内等)
- ・ 世界会議の会場内でのエスコート(会場案内、IDカード発行補助、帰国サポート案内等)、日本側関係者との連絡役

##### (イ) 会議運營業務

- ・ サイドイベント/ワークショップ補助業務
- ・ ビジネスセンター/パブリケーションセンター補助業務
- ・ イベントホール/アトリウム展示案内



## イ.事後アンケートの結果概要

### (ア) ユネスコ加盟国代表団/全体会合のスピーカー等のコミュニケーション

項目	割合
1 語学能力・コミュニケーション能力を活用して英語でスムーズなやりとりを行い、信頼関係を築くことができた。	68.2%
2 英語でスムーズなやりとりとはできなかったが、ある程度の信頼関係を築くことはできた(※)。	18.2%
3 代表団のなかにいる日本語ができる人(大使館職員等)を通じてコミュニケーションを行った(※)。	6.1%
4 大使館職員等が代表団のお世話をしていたため、自らエスコートする機会があまりなかった。	3.0%

※ 英語圏以外からの参加者で英語が堪能でなかったケースあり (注) 無回答:4.5%

### (イ) ボランティア活動を行ってよかったと思うこと(複数回答数を全体回答数で割った割合)

項目	割合
1 国際会議運営の舞台裏を知ることができた。	26.5%
2 自分の語学等の能力を活用することができた。	24.5%
3 友人を得ることができた。	23.5%
4 今後の留学や国際機関に就職しようというモチベーションが高まった。	13.7%
5 その他	11.8%

### (ウ) 活動後のボランティアの声(例示)

- ・ 将来、国際関係の仕事をしてみたい。
- ・ ESD を学ぶ貴重な機会になった。
- ・ 同じ目標を持つ他大学の友人ができた。
- ・ 東京オリンピックでは英語で外国人をおもてなしするボランティアをやってみてみたい。

## (15) 写真で見る会議の一コマ



皇太子同妃両殿下 開会全体会合 御臨席



閣僚級集合写真



正面玄関からアトリウムを望む(装飾パナー)



ランチ(閣僚級向け)



ランチ(一般)



総合インフォメーションデスク



ビジネスセンター



クローク



あいち・なごや情報カウンター、エキスカージョンデスク、宿泊関連デスク



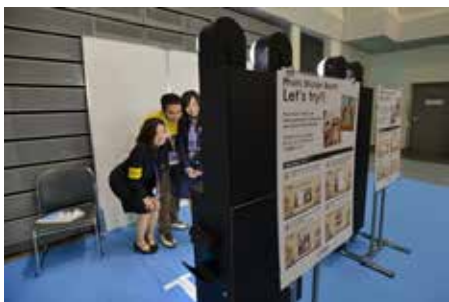
サイバーカフェ



郵便局



本世界会議を記念した郵便の小型印



プリントシール機コーナー



レジストレーション



コンgresバッグ配布カウンター



コンgresバッグ



メディアワーキングルーム



救護室